

を澤山めしあがれ

(九) (むすんで開いての譜)

皆さんいらつしやい御馳走を致しましよ

皆さんでこしらへたお豆いりを御馳走に

皆さんいらつしやい御案内をいたしましよ

(十) (鯉幟)

一、大きな紫の親鯉と樺と赤の鯉の子が二つ

て登つて行く海の様な青空に、

(十一) (勇敢なる水兵の譜)

虫に負けない大勝利毎日にこくくく

どんなにいやな日もがまんして虫に負けない大勝

利万歳く万々歳、虫に負けない大勝利

虫にまけない大勝利万歳万歳万々歳

貧ふして怒みなきは難く、
富みて驕ることなきは易し。

(論語)

○子供のあそび

坂本小學校附屬幼稚園

左記の種類は日々幼児の遊戯する者の一班を集めたる者にして中には禁止せる者をも含む

男兒の遊

一、電車ごっこ

一列となり先頭の者は運轉手となりハンドルを持つ真似をなし最後の者は車掌にしてチンくの合圖と共に電車は行進す程なくチンと打つ時は運轉手はハンドルをまわし運轉を止む此時客の二三は上下する遊なり

二、汽車ごっこ

二人づゝ片手を繋ぎて二三ヶ所に陸道を設け汽車は一列となり先頭者の汽笛の音と共に進行す

三、兵隊ごっこ

喇叭を吹き姿勢を正し列を揃へて行進す

四、戰爭ごつこ

源兵に分れて戦争し討たれし者は再び戦ふ事能はざる遊なり

五、おかめちやらちやら巻

多人數にて手を繋ぎ人を圍む遊なり

六、徒競走

豫め區域を定め置き競走す

七、お車がら〜

二名にて手を組み一人を手上に載せお車がらがらと云ひつゝ歩行す

八、落しあひ

二名づゝ圓木に乗り左右より出て手を打ち落しあふ遊

九、毬投げ

二組に分れ一方より毬を投げ他方の者之を受く若し中途におとしたる者は順次他の者出で、之に代る

一、御輿遊

主に鎮守祭日の當坐になす遊にして二人つゝ手を組み撒を撤ておくれ……と云ひつゝ騒ぎ遊ふなり

一、柱とり

一名づゝ柱を定め置き一人の鬼は一二三と云ひつゝ柱に寄る他の者は一二三の合圖と共に己が位置を變更す若し遅れて來る者又は元の柱に居る者は直ちに中央に出で一二三の合圖をなしつゝ柱を取るなり

二、人取り

二組に分れ兩組の大將出て合戦の合圖と共に一同出て戦ひ討たれし者は敵の仲間となり残り一人となりて勝負を定む

女兒の遊

一、伯母さんごつこ

まゝごと遊に類し二三ヶ所に團體をつくり家族の者を定め他家を訪問する遊にして木の葉、色

紙等を以て土産物となし居れり

二、籠目

圓形となり籠をつくり中に鳥を二三羽入れ周圍の者は籠目の歌を唱ひつゝ、行進し唱歌の終ると共に鳥は飛翔しつゝ周圍の者にとまる、

三、いもむしころく

一列となり前者の帯につかまりいもむしころく、瓢箪ぼつくりこと唱ひつゝ、蹲踞するなり

四、餅焼遊

庭園の中央放水場なる孔上に木の葉を載せて餅を焼く遊なりと稱し居れり

五、子取り

二組に分れ兩組の親出でジャンケンして子を取る遊

六、坊さんく

圓形をつくり中に一人僧を入れ左の歌を唱ひつゝ、後ろの者の名をあて交代する遊

幼坊さんく何處へ行くの

幼わたしは圖書に翻筋に

幼わたしも一所に参りませう

幼お前が來ると邪魔になる

幼後の正面誰?

七、猫買ひ

猫を賣る人ありて多くの猫を持つ一人の買手來りて猫を買ひ家に連れ行き買物に出掛る留守に猫は逃げ去るを見止めて之を捕へ次に買手となし漸次猫の數の減する遊なり

男女共遊

一、學校ごっこ

一名は教師他は皆生徒となり教師の命するがまゝに引率され課業として遊戲唱歌をなす

二、しやがみ鬼

普通の鬼事にして唯おかの代に蹲まる點に於て異なるのみ、蹲踞せる時は鬼は決して捕ふる事能はず

三、たゝき鬼

圓形をつくり一名鬼となり圓周の者の脊を打ちて圓外を一周す打たれし者は手を放ち鬼と反對の方にまわりて競走し早く圓に入りたる者を勝とす

四、圓木渡り

圓木の上を手放しにて往來す

五、うしろの正面

圓形となり一名は中に在りて眠る、周圍の者は唱歌しつゝ行進すうしろの者は唱歌の終ると共に後ろの正面誰々と云ひ聲により名を宛る遊

六、本所のおひてきぼり

一名の盲を他人數にて或隅に連れ行きもう宜しと云ひつゝ逃げ歸る盲は直ちに目を開き逃るゝ者を捕ふ

斯くして捕へられたる者は盲となりて連れ行か

るゝなり

七、子を捕ふく

一列となり前者の帯につかまり鬼は最後の者を捕ふる遊にして先頭の者は親となり兩手を擴げて之を防ぐ

八、飛つこ

ジャンケンして勝つ毎に一歩づゝ進む遊

學ばざることあり、之を學びて能くせざれば措かず。問はざることあり、之を問ひて知らざれば措かず。思はざることあり、之を思ひて得ざれば措かず。辨へざることあり、之を辨へて明ならざれば措かず。行はざることあり、之を行ふて篤からざれば措かず。人一人たび之を能くすれば、己れ之を百たびし。人十たび之を能くすれば、己れ之を千たびす。果して、此道能くすれば愚なりと雖も明に、柔なりと雖も必らず強し。(中庸)